

## 会議報告書

開催年月日	2009年1月11日(日) 11:00~15:00
会議の名称	第6回 予防接種委員会
開催場所	安保ホール
出席者(敬称略)	永井崇雄、岡藤隆夫、落合 仁、田原卓浩、寺田喜平、宮崎千明 横田俊一郎、吉川哲史、藤岡雅司
会計	支出 36,029円(会議室使用料 23,744円+昼食代 12,285円)
報告事項	
1	日本外来小児科学会役員会からの連絡事項(藤岡) 平成20年決算 68,421円(第5回会議費 24,744、調査費 33,677)、残金 81,579円は翌年に繰越予定 平成21年度予算 150,000円(会議費5万円、調査費10万円)を申請 今後は、資料作成費、コピー費、郵送費等、できる限り請求することを確認した。 予防接種システム検討会は、九州外来小児科学研究会との併催のため、執行額は発生せず。
2	第18回年次集会報告(吉川、永井) 全体の参加者は約2,100名、予防接種委員会主催シンポジウムは約300名。 会員への具体的な行動の指針を示すことができた。
3	DTaP/DT追加接種臨床試験の進行状況について(永井) 永井委員長から中山哲夫先生に連絡を取り、中間報告等について相談する。
4	麻疹風疹全数報告の全国自治体の実施状況調査について(落合) 回収率が悪く、同一自治体内での回答内容が異なっている。中間報告を同封して督促する予定。
4	厚生労働省、小児科学会等における動きについて(宮崎) ①麻しん風しん(2期、3期、4期)接種率中間報告(12月2日):福井県方式の報告(田原) ②Hibワクチン定期接種化要望書、PCV7審査迅速化要望書等を三者協で取りまとめ作業中。 ③予防接種に関する検討会(12月26日開催) ・組織培養日本脳炎ワクチン: 初年度供給予定量 500万本、製造承認後に、実施方法、安全性調査、経過措置等について協議予定 ・アクトヒブ:国内年間供給量 100万本、包装ラインが不足、市販後調査とは別に研究班でも安全性調査を予定 ④不活化ポリオワクチン:DPTとの4種混合、3社が開発中、開発の遅れをポリオ予防接種専門家諮問グループ検討 会が事情聴取 ⑤ワクチン産業ビジョン推進委員会(12月25日開催) WGによる混合ワクチン推進、ワクチン治験ガイドライン作成、ACIPミーティング、欧州ワクチン制度視察など ⑥その他:水痘、おたふくかぜワクチン定期接種化、HPVの啓発の必要性など
5	その他:MR接種体制全国調査の学会誌掲載の件、第4回予防接種システム検討会報告
協議事項	
1	第19回年次集会(大宮)への対応:年次集会のコンセプト説明(横田)。委員会としての予定はない。
2	第20回年次集会(福岡)への対応:コメディカル、若手医師向けWSなど協働できる内容を今後検討する。
3	日本外来小児科学会で行なう予防接種に関するリサーチテーマ ①「水痘・おたふくかぜワクチンの同時接種の効果と安全性の検討」(藤岡):倫理委員会、研究基金等に提出予定。 ②「麻しん(又はMR)ワクチンの発熱率はそれほど高くない?」(永井) ③「突発性発疹後のワクチン接種時期による抗体反応の差の研究」(吉川) ④中山哲夫先生からの提案: 成人百日咳の実態調査、アジュバントワクチンの接種部位の検討、A型肝炎ワクチン小児適応の臨床試験
4	次回開催日等について 資料作成費、コピー費、郵送費等を請求するための様式を藤岡が作成すること。 次回開催日は5月から7月中を予定。メーリングリストで検討する。